

富医ニュース

No.589 令和2年11月1日

一般社団法人 富田林医師会
会長 宮田 重 樹
〒584-0082 富田林市向陽台1丁目3-38
TEL.(0721)29-1210 FAX.(0721)28-0858
E-mail: mail@tondabayashiishikai.jp

調 整 日

10月分 11月6日(金)
PM3:00まで

11月分 12月8日(火)
PM3:00まで

11月の予定

2日(月)・会長副会長連絡会議

6日(金)・調整日

11日(水)・救急災害医療委員会

13日(金)・理事会

16日(月)・訪問看護ステーション
運営委員会

19日(木)・学術講演会
(大会議室)

24日(火)・広報調査委員会

26日(木)・学校医部会研修会
(座学・WEB)

27日(金)・広報調査委員会
(校正)

今秋からの ウィズコロナでの検査診療体制

9月までは新型コロナ疑い患者のPCR検査をするかは主に保健所に委ねられていました。

10月から有熱患者に対して、大阪府と新型コロナ検査契約を交わした医療機関では検査できるようになりました。富田林保健所管内では、大阪南医療センター、金剛病院が、新型コロナ検査センターを請け負って下さっています。富田林病院、前田クリニックは準備中、PL病院は検討中です。富田林医師会会員の中で、自院での検査を行って頂ける医療機関が30強あります。検査体制は整ってきていると思われます。

有熱患者から受診の依頼があった場合、①初診患者でも受け入れる②再診患者だけ受け入れる③すべて受け入れないの3つの対応があります。①②の場合で、自院で検査できる場合は自院で検査を行って、新型コロナでない風邪の場合通常通りの診療を行います。

検査できない場合は、検査センターに検査をオーダーし、新型コロナでない風邪の場合通常通りの診療を行います。検査を行った患者には結果が出るまで自宅で安静にするように指示し、風邪の処方を行います。

新型コロナ検査で陽性と判明した場合、保健所に届出を出す(FAXまたはHER-SYS)と同時に保健所に電話連絡を入れます。患者には“保健所から連絡がありますのでそれに従ってください”と伝えます。連絡を受けた富田林保健所は、患者に連絡を入れて説明し、入院先の手配、急変した場合に備え救急隊にも事前に連絡を入れて下さいます。

大阪市の某先生に伺ったところ、昔24あった保健所が今は経費削減によって1つになり、各区に保健センターがあるだけのため、新型コロナ陽性と判明した場合、その医療機関で入院先を探し、見つかるまでの間の患者対応も求められるので協力できないとのことでした。

府下の各医師会においても、管内の病院でどれだけ検査をできるのか発熱外来をするのか、保健所の対応力等によって状況が異なっています。

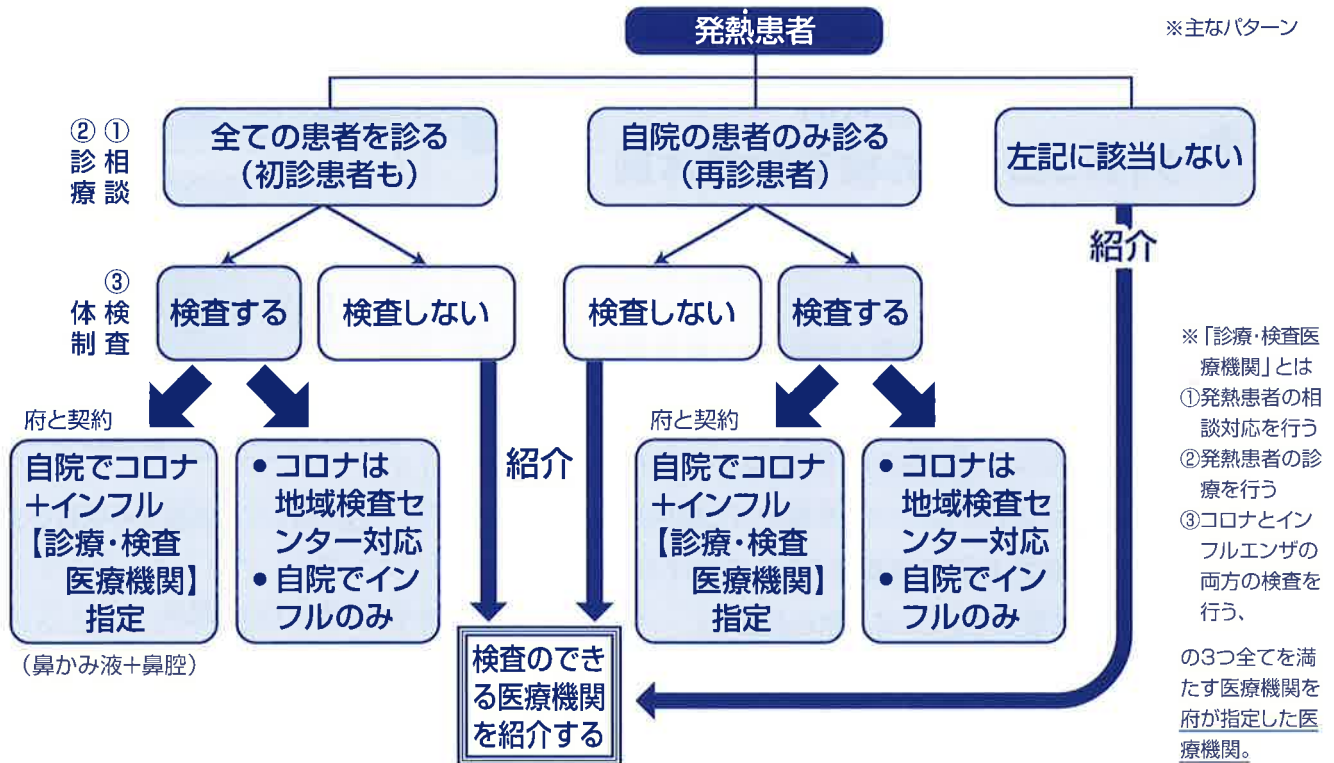
富田林医師会管内では発熱外来している病院はありませんが、多くの自院で検査できる医療機関があり、富田林保健所は、新型コロナ陽性が判明したら、迅速に対応して頂けます。富田林医師会管内では整備が整いつつあります。

(宮田会長)



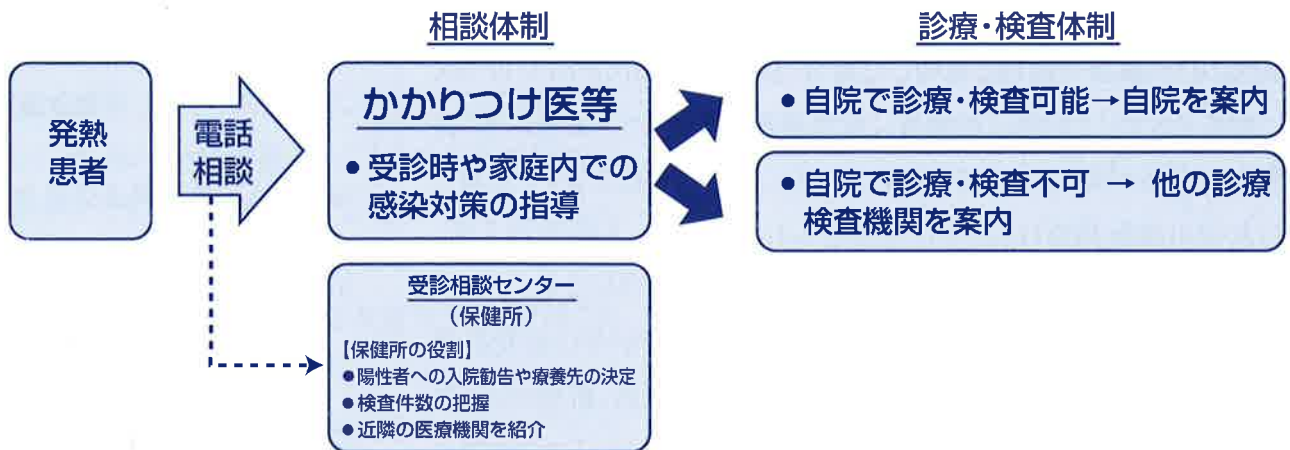
11月からの発熱患者にかかる相談、受診、検査体制 (診療所向け)

～今冬の発熱患者増加に備えて～



11月からの発熱患者の相談体制 (患者向け)

～発熱等の症状があれば、まずは「かかりつけ医」に相談してください！～



電話対応 (案)

これまでの、発熱などの症状がある場合の相談先は、受診相談センターの機能を有する「保健所」が中心でした。しかし、11月以降は、図のように、まずは「かかりつけ医」に相談する体制となります。

もし、「かかりつけ医」で診てもらえない場合は、かかりつけ医が「診てもらえる医療機関」をご紹介します。

「かかりつけ医」では、コロナの検査ができる場合とそうでない場合があります。もし、「かかりつけ医」が検査できない場合でも、検査可能な医療機関や検査機関を案内し、コロナの検査を受けてもらえる体制となっています。

受診の際は必ず、先に「かかりつけ医」に電話して、受診方法を確認した上で、指示を守って受診しましょう。

もし、「かかりつけ医」がない場合は、これを機に「かかりつけ医」をもちましょう。

令和2年10月定例理事会

日 時 令和2年10月9日(金)

13:30より

場 所 医師会 大会議室

会長挨拶

報告事項

- 1) フェイスシールド、ガウンなど希望医院へ配りました。次のガウンがまた届きましたので集合契約されている方で再度配ります。(感染症対策委員会)
- 2) PCR検査と地域外来・検査センターの状況について。(児嶋理事)
- 3) インフルエンザ流行期における発熱外来診療体制確保補助金について。
- 4) ワクチン接種間隔の変更について。
- 5) 太子町子ども医療費助成制度の対象年齢の拡大について18歳までになった。
- 6) 産業医の単位のとれる有料講義の案内について(産業医部会)

協議事項

- 1) 入退会の件
- 2) 健康啓発に関する市よりの補助金200万の使用について。

富田林医師会学術講演会

日 時：令和2年11月19日(木) 14:00～15:00

場 所：医師会 大会議室

【特別講演】

『2020年ADPKD診療について』

講師 近畿大学医学部腎臓内科 中谷 嘉寿 先生

常染色体優性多発性嚢胞腎(Autosomal dominant polycystic kidney disease:ADPKD)は成人発症の最も多い遺伝性腎疾患である。その腎障害の進展を抑制する根本的治療薬は極めて少なく、従来では降圧療法が治療の中心であった。そのため若年から末期腎不全へと移行することが多かった。

透析療法導入にあたりADPKDは、糖尿病、慢性

糸球体腎炎、腎硬化症に次ぐ4番目に多い疾患であり、毎年新規透析導入患者全体の2.6%前後占めている。新規透析導入患者数はまだ増加傾向にあるため、治療の進歩が早急に望まれる。

今回の講演では、腎機能低下や腎容積増大の抑制を目的とした治療についてフォーカスを当てて述べる。トルバプタンはバソプレシンV2受容体拮抗薬であり、嚢胞増大を抑制し、腎機能障害進行を抑制できることが大規模臨床試験であるTEMPO 3:4試験で報告される。またより高齢で腎機能が悪い症例を対象としたREPRISE試験でもトルバプタンが有効であると報告されている。以上の大規模臨床研究結果ならびに基礎研究による腎嚢胞の増大進展機序を説明しながら、現在行われているADPKDについての診療について概説を紹介致します。またADPKD患者診療における問題点を挙げながら、当院における取り組みについても合わせて紹介させていただきます。

※本会は生涯教育制度1.0単位を申請予定中です。(CC:12、地域医療・CC:67多尿)

尚、中谷先生の講演後

—食とセルフケア、地域の栄養支援について—

NPO法人はみんぐ 南河内 管理栄養士

時岡 奈緒子氏のお話があります。

令和2年度 学校医部会研修会 【WEB講習会・座学講習会】

恒例の学校医部会研修会を下記の日程で開催いたします。今回はコロナの関係でWEB会議システム(ZOOM)での視聴を基本としますので、別紙にて必要事項をご記入の上メールにてお申込みください。視聴環境が整わない場合は当会大会議室でご参加も可能ですが、収容人数に限りがありますのでこちらも参加の旨を別紙にてFAXくださいますようお願い申し上げます。

日 時：令和2年11月26日(木) 14:00～15:30

座学会場：富田林医師会 大会議室

【テーマ】

『Withコロナ時代の学校保健のあり方について』

講師 ふじおか小児科 院長 藤岡 雅司 先生

本会は生涯教育制度1.5単位、取得カリキュラムコード「8感染対策」「9医療情報」「12地域医療」を申請中です。当日は生涯教育チケットをご持参ください。

また、大阪府医師会指定学校医認定研修の申請もしております。

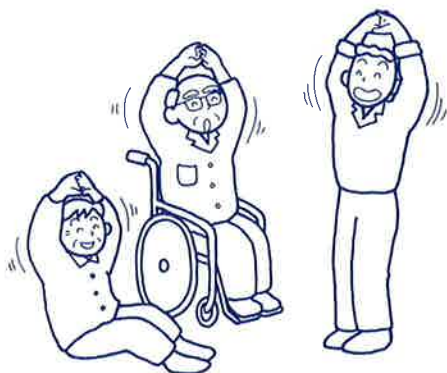
専門医より一言(講演内容のまとめ)



“地域でみる心不全治療”

近畿大学医学部
循環器内科学
講師 高瀬 徹 先生

日本は高齢化社会が進むにつれて心不全パンドミックに陥ると言われ、試算では今後10年間で年間30万人以上の新規心不全患者が発症すると予想されています。心不全の特徴は、一度発症すると再発を繰り返し再発するたびに循環不全は進行し、最終的には死に至ります。心不全治療には原因疾患に応じた治療が最も効果的であり、近年ではTAVIなどの構造的な心疾患に対するインターベンション治療もできるようになっています。一方で心不全を発症すると、原因疾患の治療を行っても再発の危険性があります。患者さんの心不全に対する認識を正しく理解し、自己管理をしてもらう必要があります。そのため、細やかに診療をしてもらえる地域医療の存在がとても重要になります。今後、増え続ける心不全患者を地域で診療できるネットワークを構築する事は、心不全患者の予後を改善できると期待されています。



10月行事・会合

6日(火)・休日診療委員会

8日(木)・調整日

9日(金)・理事会

15日(木)・学術講演会(すばるホール)

座学・WEB同時開催

19日(月)・訪問看護ステーション運営委員会

23日(金)・広報調査委員会

27日(火)・休日診療委員会

・広報調査委員会(校正)

30日(金)・フォーラム委員会



○会員数(11月1日現在) 186名

A会員 95名 B会員 90名 C会員 1名

○入会 なし

○退会 なし

○異動 なし

広報調査委員会

委員長	齊藤 謙介	副委員長	森井 秀樹
委員	青山 賢治 江村 俊也 遠山 佳樹 山本 善哉	天城 完二 奥野 敦史 中村 元	植村 匡志 尾多賀雅哉 藤岡 洋